

かみしな の かにかわ

上品野蟹川遺跡

所在地 瀬戸市上品野町地内

調査理由 国道363号線改良

調査期間 平成12年10月～12月

調査面積 2,000㎡

担当者 北村和宏・宇佐見守・鈴木達也・早野浩二



調査地点(1/2.5万「多治見・猿投山」)

調査の経過 調査は国道363号線の改良工事に伴う事前調査として、愛知県建設部より愛知県教育委員会を通じた委託事業として昨年度より実施している。本年度は2,000㎡を、A・B区の2つの調査区に分割して実施した。調査期間は平成12年10月から12月である。

立地と環境 上品野蟹川遺跡は瀬戸市の北東部、水野川と蟹川が合流する地点付近の標高約180mの沖積地に立地している。遺跡の南には旧石器時代から近世にかけての複合遺跡である上品野遺跡がある。

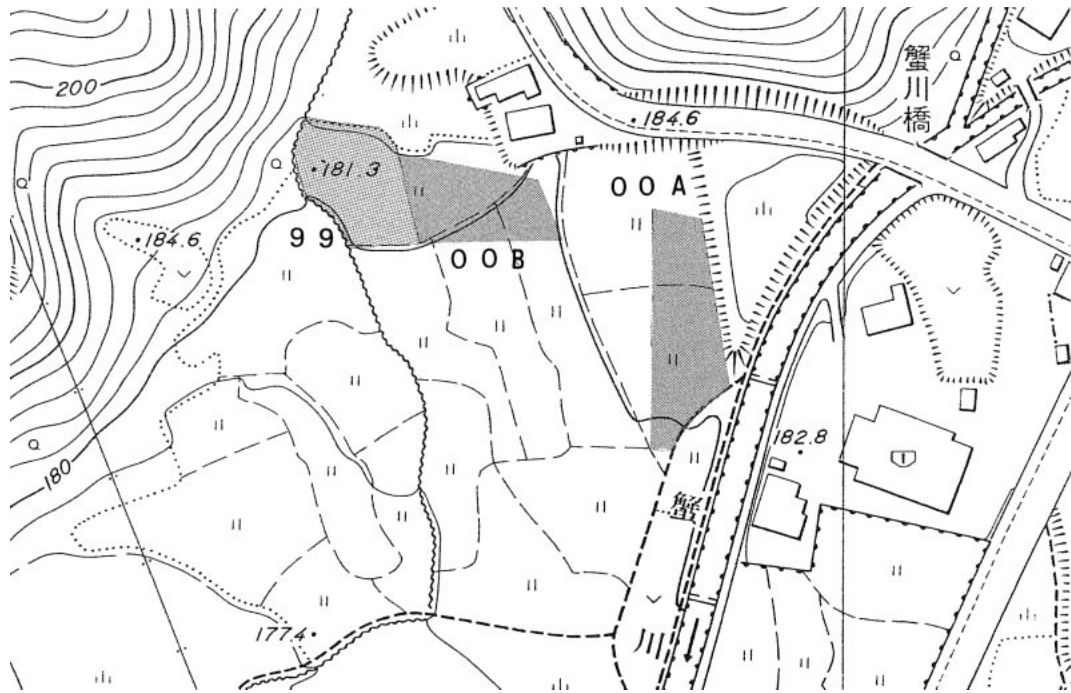
調査の概要 調査は、昨年度の調査区の東約60mにA区(1,300㎡)を、昨年度の東隣にB区(700㎡)を設定し実施した。

A区では、調査区の北西部と南東部を流れる2条の自然流路に挟まれた微高地で、平安時代の竪穴住居1棟・大形土坑1基・溝2条・ピット群を検出した。竪穴住居は調査区の中央西寄りに位置する。東西約3.5m、南北約2.4mを測る隅丸方形の竪穴住居で、北壁中央やや東寄りでカマドを検出した。また、建築部材と考えられる炭化物を住居内のほぼ全面から検出した。カマドの残存状態は良好で東西約90cm、南北約100cmを測る。カマドの焚口部には東西約100cm、南北約50cmの灰・炭化物の広がりを確認した。北壁に沿う位置で支脚と考えられる石と、その周りで土師器の甕(濃尾型甕)が出土した。他の出土遺物としては、東壁中央近くの床面直上で完形の灰釉陶器の椀(黒笹14号窯式)が伏せた状態で出土した。大形土坑は竪穴住居の東南約3mにある。径約2.1mのほぼ円形を呈し、検出面からの深さ約45cmを測る。埋土中から土師器の甕・灰釉陶器の椀の破片が出土した。2条の溝は東西方向に平行に走る。西側はともに調査区外のため全容は明らかではないが、北側の溝(SD01)は検出長約2m、検出面からの深さ約3cmを測る。南側の溝(SD02)は検出長約13m、検出面からの深さ約20cmを測り、東南部を流れる自然流路に続いている。また調査区中央部から南部にかけて多数のピットを検出したが、これらの幾つかは掘立柱建物の柱穴になると考えられる。

B区は、北西部の丘陵斜面と北東部から南部に広がる自然流路に分かれる。これらは昨年度の調査区から続くものである。遺構としては戦国時代の施釉陶器の破片が出土した溝・土坑を丘陵斜面で検出した。自然流路の埋土の上層の黒褐色土からは山茶椀・施釉陶器・木製品など鎌倉から室町時代にかけての遺物が、下層の青灰色粘質土の直上から須恵器・灰釉陶器など奈良・平安時代の遺物が出土した。

その他、A・B区の包含層から出土した遺物として、旧石器時代の石器・剥片、縄文時代の石鏃、「山寺」「山」「阿」などの墨書がみられる灰釉陶器、宋銭(「元豊通宝」「紹聖通宝」)などがある。

(宇佐見 守)



調査区位置図 (1 : 2,500)



A区 全景 (北より)



B区 全景 (東より)



A区 竪穴住居 (東より)



A区 竪穴住居カマド